

今
週
の
み
こ
と
ば

「約束のおことば」

(創世記18章1節～15節)

「主にとって不可能なことがあるだろうか。わたしは来年の今ごろ、定めた時に、あなたのところに戻って来る。そのとき、サラには男の子が生まれている。」(18:14)

(ローマ人への手紙9章1節～9節)

「すなわち、肉の子どもがそのまま神の子どもではなく、むしろ、約束の子どもが子孫と認められるのです。」(9:8)

今日 の メ ッ セ ー ジ 要 旨

◎私たちは、人との関わりの中で生きていますが、その関係が維持されるため、語られた言葉を信頼できるかどうかに関わるのです。神との関係は如何ですか？

◎創世記18章は①サラへの受胎告知(1-15)、②ソドムへのさばきの告知(16-21)、③アブラハムのとりなし(22-33)です。

◎神様はアブラムを召し(12:1-3)、カナンに入国し(12:4-6)、契約を更新し、息子の誕生を約束されました(15章)。その後、様々な出来事を経て神様は再度、契約を更新され、アブラムをアブラハムと改名され(17:1-8)、息子の誕生の約束をされたのです(17:15-19)。それから神様は三人の人(み使い)を遣わし、アブラハムが快くもてなす中で、サラへの受胎を告知されたのです。その会話を聞いていたサラは「笑った」のです(18:12)。アブラハムも同様に笑っていたのです(17:17)。神様は人間的に笑わざるを得ないことを契約の故に行われたのです。そこに約束の子イサク(彼は笑う)が誕生し、まさに笑わせてくださったのです(21:1-7)。この出来事の鍵は何でしょうか。「主に不可能なことがあろうか」(18:14、エレミヤ32:17, 27、ゼカリヤ8:6、マタイ3:9、19:26、ルカ1:27)。私たち人間が狭い心で神様を推しはかることは愚かしいことです。何時も全能の父なる神様に祈り、信頼するものでありたい。

◎ローマ人への手紙9-11章は「イスラエルの救い」に言及し、9章では「神の選び」に重点を置かれているのです。イシマエルとイサク(7-8)、エサウとヤコブ(12-13、マラキ1:2-3)を対照しながら、イスラエルの民を選ばれた事を告げると共に、彼らがイエス・キリストを拒絶していることに対するパウロの切なる願いが告白されているのです。彼らが救いを「信仰によってではなく、行いによるかのように追い求めたからです」(32)。その結果、「義を追い求めなかった異邦人が義を、すなわち、信仰による義を得ました」(30)。「イスラエルから出る者がイスラエルなのではなく、…肉の子どもがそのまま神の子どもではなく、約束の子どもが子孫と見なされる」と告白されているとおりです(ガラテヤ3:29)。

◎神様はすべての人の救いを願ってイエス・キリストの十字架の死と復活を以て贖いの御業を完成されたのです。この主に信頼する者はあわれみを受けるのです。しかし信頼しない者はさばかれるのです。私たちは滅ぶべき者であるにも関わらず、神様の忍耐の故に救われていることを覚え、心から感謝し、この主イエス様を喜び、証しするものでありたい。信仰の先達者たちを覚え、見習いたい。